



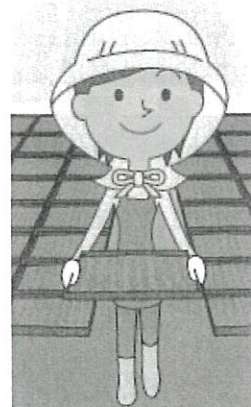
	部(支所)長	課長	担当
回 覧			

## 水稲育苗箱処理剤／ジャンボタニシについて

いつもお世話になっております。新年度が始まり、2カ月余りが過ぎようとしております。さて、県内では早期の水稲の田植えも始まり普通期の田植えの時期が近付いております。そこで今回は水稲育苗時の農薬使用の注意点と近年その生息域を広げつつあるジャンボタニシの生態と対策について取り上げました。また、今後農繁期を迎えるにあたり、全国的に6月からは農薬危害防止運動の実施期間となりますのでぜひ、参考にしてください。

### 水稲育苗箱処理剤の使用での注意

現在、殺虫剤、殺菌剤のコンビネーションにより多くの種類の箱処理剤が上市されています。剤を選ぶときは、防除すべき病害虫は何かをよく考え、剤の持つ効果・残効性やコストと照らし合わせて選択する必要があります。また、地域によっては、抵抗性害虫や耐性いもち病菌が発生している場合があります。以下に箱処理剤の注意点について記述しました。



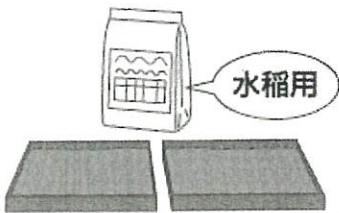
### ～水稲の箱処理剤は丁寧に散布してください～

本田10aに植えつける育苗箱は約20箱、育苗箱状態で散布する農薬の量は大変多くなります。(本田10a)に1kg＝育苗箱20箱(3.6㎡に1kg)  
そのため、育苗箱の周りに少しこぼしてしまった場合でも地面に落ちている量は思った以上に多く、また、育苗期の灌水作業により散布した薬剤が土壌に流れ込む可能性もあります。このため、薬剤散布時は丁寧に、こぼさないようにすることはもとより、薬剤が土壌にしみこまないような対策をしっかりとることが重要です。

私たちJAグループは“無登録農薬”は扱いません!

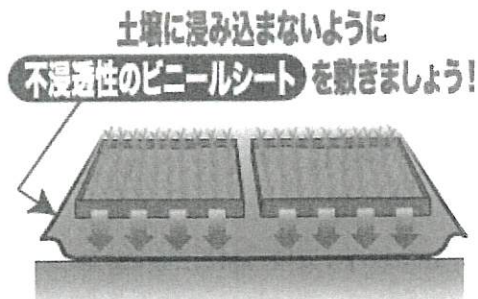
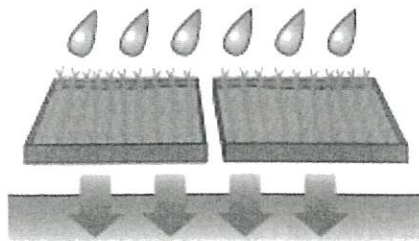
## ～ラベルをよく読んで使用しましょう～

水稲育苗中に使用する農薬の中には、野菜などに登録がないものがあります。  
また、水稲除草剤と外見がよく似ている為、間違って散布しないようにしましょう。除草剤には【これは除草剤です】と記載があります。



## ～土壌にしみこませない対策をとりましょう～

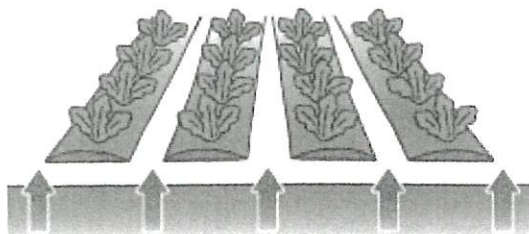
育苗期に農薬を散布するときは、育苗箱の外にこぼれおちないように丁寧に行います。  
育苗箱の下に不浸透性のビニールシートなどをしき、散布した農薬が、土壌にしみこまないようにしましょう。こぼれ落ちた農薬はそのまま放置しないで掃き集めるなどして、土壌や水などに影響がないように処理を行いましよう。



## ～水稲育苗を行った後の同じ場所で、

### 野菜など他の作物を栽培しないようにしましょう～

育苗作業後に他の作物を栽培している場合は特に注意！  
育苗作業が終わった後の圃場で、野菜など他の作物を栽培すると、育苗作業時に土壌にしみこんだ農薬が、作物に吸収されてしまう場合があります。  
その結果、防除で使っていない農薬が収穫作物から検出されるなど、残留農薬として問題が生じる可能性があります。



# ジャンボタニシってどんな稲作害虫？

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

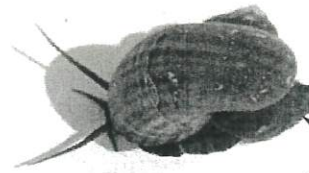
【原始紐舌目タニシモドキ科 スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）】

ジャンボタニシは昭和56年頃から食用販売を目的に台湾あるいは南米から導入され、養殖されましたが、一部が野生化し、用水路に定着しました。昭和60年頃から九州で水稻、レンコン、イグサなどを食害し問題となっています。

(写真JA全農資料より)

(生態)

シーズン1	春	卵から発生 殻高1~3cmに生育 土中で越冬。小さすぎる貝は寒さと乾燥で死亡
	夏	
	秋	
	冬	
シーズン2	春	土中から出てきて活動再開 繁殖、産卵 大きな貝となり土中に潜れず、寒さと乾燥で死亡
	夏	
	秋	
	冬	



ジャンボタニシ成



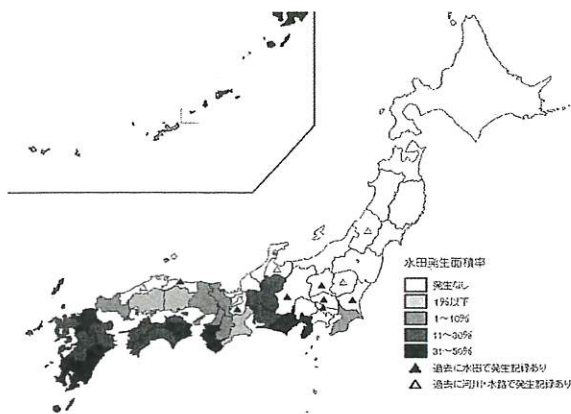
ジャンボタニシ卵

(被害)

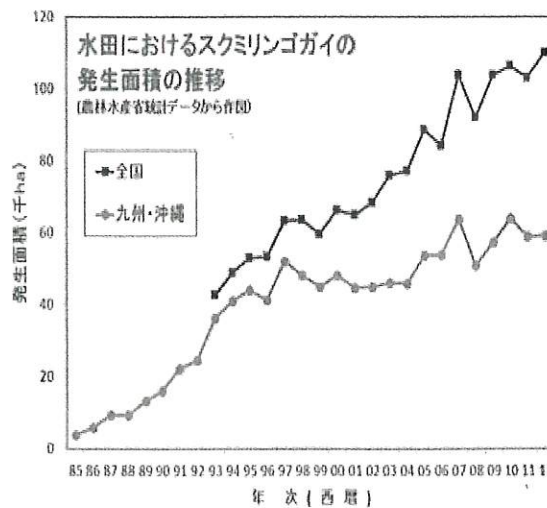
水草はすべて食害される傾向にあります。極めて広食性です。イネでは貝の大きさとイネの食害には相互関係があり、幼苗を好んで加害します。また、深水管理の水田ほど被害が大きくなる傾向があります。

(発生分布、被害面積発生分布、被害面積、発生面積率)

河川や水田で野生化したジャンボタニシは導入当初から急激に分布を拡大し、1987年には28都府県の水田で発生が認められました (Mocnida, 1991 および農水省調査結果)。以降あまり変化はありません。ただし、将来温暖化が進むと更に分布が北上する可能性があります。



水田におけるスクミリンゴガイの発生面積率 (都道府県から農水省に報告されたデータから作成: 2012年)



年次	全国	九州
1985	43	36
1986	49	41
1987	53	44
1988	54	41
1989	63	52
1990	64	48
1991	60	45
1992	66	48
1993	68	45
1994	69	45
1995	77	46
1996	78	46
1997	90	54
1998	85	54
1999	104	64
2000	93	51
2001	104	57
2002	106	64
2003	103	59
2004	110	59

(農研機構 HP より引用)

(防除法)

(1) 耕種的防除

- 用水路から水田への侵入を防ぐため、取水口に網を張る
- 移植後2週間程度は浅水管理とする
- 用水路は冬期の期間は出来るだけ乾燥させる

(2) 物理的防除

- 卵塊を水面にはたき落とす
- 黒ずんだ卵塊はふ化直前なので圧殺する
- できるだけ地域で一斉に年数回捕殺する

(3) 薬剤防除

肥料で使用されている石灰窒素にも農薬登録があり、スクミノンと石灰窒素は殺貝効果があります。

主なスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）剤

商品名	スクミノン	メタレックスRG粒剤	ジャンボたにしくん	スクミンベイト3	スクミハンター
成分		メタルテイト		磷酸第二鉄	チオシラム
含量	10%	5%	5%	3%	8%
使用量	1~4kg/10a	0.7~1.4kg/10a	1~2kg/10a	2~4kg/10a	1~2kg/10a
使用時期	収穫60日前まで	移植後、 但し収穫90日前まで	収穫60日前まで	発生時	収穫45日前まで
毒性による分類	-	-	-	-	医薬用外劇物
販売メーカー	サンケイ化学	日本農薬	北興化学・住友化学	三井化学・OATアグリオ	日本化薬
商品画像					

\*スクミノンについては大型規格（10kg）が上市されています！詳細は別途、チラシをご確認ください。

## JAグループ「安全防除運動」展開中

◎農産物の安全……今、消費者がもっとも願っている「食の安全」。

それは私たち生産者の願いでもあります。きちんとした農薬を選び、正しく使って、日誌に記録を残す。これを続けることが、消費者に信頼される農産物づくりにつながります。

- 使うのは、もちろん登録農薬！
- 安全使用・事故防止へ、ラベル確認を習慣に！
- 使用後も、防除日誌で“安全証明”

◎環境の安全……土や水といった自然の恵みを利用して営まれている農業。皆さんが守り続けてきた大切な田畑を、次の世代に残すためにも、自然環境に十分配慮した農薬散布を心がけましょう。

- 必要量だけ希釈し、使い切る。空容器は適正処理を！
- 水稲除草剤の散布後は、圃場外への流出防止策を！

◎農家の安全……軽装備による散布中の事故や子供の誤飲事故が増えています。いくら周辺の環境に配慮しても自身の健康を害しては何にもなりませんし、周辺住民との信頼関係を築くためにも農薬の保管管理にはいっそう注意したいものです。

- 暑さに負けるな。完全防備！
- 使用後は“薬の戸締り”万全に！

散布するときは、  
マスク、メガネ、手袋を  
きちんと、つけましょう。



安全使用基準を守りましょう

**農薬適用拡大情報（園芸剤）**

本情報は、農業指導場面において有効にご活用いただくために、各農薬メーカーから頂いた情報を集約して提供しております。内容については確認が行き届かない場面もありますので、ご活用の際は、必ず登録内容をご確認の上、ご指導・ご使用のほどよろしくお願いたします。

平成29年4月19日～5月16日  
に拡大した情報

農薬名	作物名	変更箇所	変更年月日	メーカー名
メジャーフロアブル	はくさい	【適用病害の追加】 白さび病 2000倍、収穫3日前まで、3回以内	4月26日	日本農業
	たまねぎ	【適用病害の追加】 小菌核病 2000倍、収穫前日まで、3回以内		
ジュリボフロアブル	ねぎ	【適用作物の追加】 タマネギバエ・タネバエ・ネキリムシ類/200倍/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用土壌約1.5～4L) 当り 0.5L/灌注/1回/育苗期後半～定植当日	4月26日	シンジェンタジャパン
ロディー水和剤	かんきつ びわ	【成分総使用回数の変更】※剤の使用回数の変更はない。 フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数 4回以内⇒6回以内（噴射は2回以内、散布及びくん煙は合計4回以内）に変更する。	4月26日	北興化学工業
	もも	【成分総使用回数の変更】※剤の使用回数の変更はない。 フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数 5回以内⇒7回以内（噴射は2回以内、散布は5回以内）に変更する。		
	うめ	【成分総使用回数の変更】※剤の使用回数の変更はない。 フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数 3回以内⇒5回以内（噴射は2回以内、散布は3回以内）に変更する。		
	おうとう	【成分総使用回数の変更】※剤の使用回数の変更はない。 フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数 2回以内⇒4回以内（噴射は2回以内、散布は2回以内）に変更する。		
	ぶどう	【成分総使用回数の変更】※剤の使用回数の変更はない。 フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数 2回以内⇒4回以内（噴射は2回以内、散布及びくん煙は合計2回以内）に変更する。		
ロディー乳剤	かんきつ	【成分総使用回数の変更】※剤の使用回数の変更はない。 フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数 4回以内⇒6回以内（噴射は2回以内、散布及びくん煙は合計4回以内）に変更する。	4月26日	北興化学工業
	もも	【成分総使用回数の変更】※剤の使用回数の変更はない。 フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数 5回以内⇒7回以内（噴射は2回以内、散布及びくん煙は合計5回以内）に変更する。		
	マンゴー	【成分総使用回数の変更】※剤の使用回数の変更はない。 フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数 2回以内⇒4回以内（噴射は2回以内、散布は2回以内）に変更する。		
スミロディー乳剤	みかん	【成分総使用回数の変更】※剤の使用回数の変更はない。 フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数 4回以内⇒6回以内（噴射は2回以内、散布およびくん煙は合計4回以内）に変更する。	4月26日	サンケイ化学
	なつみかん	【成分総使用回数の変更】※剤の使用回数の変更はない。 フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数 4回以内⇒6回以内（噴射は2回以内、散布およびくん煙は合計4回以内）に変更する。		
	もも	【成分総使用回数の変更】※剤の使用回数の変更はない。 フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数 5回以内⇒7回以内（噴射は2回以内、散布は5回以内）に変更する。		